

# 石垣靖子氏の著書に、看護師が担う 役割の重さをあらためて学ぶ

＝ 函館おしま病院・間島敦子さん ＝



間島さん

を一身に背負い、国民の生活を守る役割を担っていた。英国の総婦長はマトロンと呼ばれ、患者さんの生活を整える責任を担っているわけです。

私は以前、東札幌病院で研修を受けたことがあるのですが、石垣先生は責任者として患者さんのお迎えを必ず行われていました。そのような姿に感銘を受け、当院でもそれに見習い、担当看護師やワーカーらと共に必ず出迎えるよう努めています。

この本は看護師が責任をもってケアすることの大切さをあらためて教えてくれます。ホスピスだけでなく、急性期病院、高齢者施設など高齢者と関わりのある施設の職員すべてにお薦めしたい本です。

間島さんのもう一冊のお薦めは、聖路加国際病院理事長・日野原重明氏の近著「テnder・ラブ」(ユリーグ、八百四十円)。終末期患者を看取ってきた経験から様々の愛の形を、愛の最高の表現「テnder・ラブ」と名付け、紹介していきます。

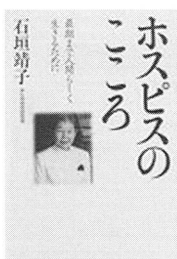
ここには例えば、若い母親が子ども

医療法人敬仁会函館おしま病院(福

徳雅章院長・五十六床)の間島敦子総看護師長はホスピスケアに携わる中で、東札幌病院の石垣靖子副院長が執筆した「ホスピスのこころ 最期まで人間らしく生きるために」(大和書房、千八百九十円)に深く感銘を受けたと話します。

同書は日々のちと向き合うホスピスケアの現場からのヒューマンエッセイ。間島さんはこの中でナイチンゲールの「看護覚え書き」に学ぶ一節がとくに印象に残ったと言います。

「ナイチンゲールは英国の貴族の家に生まれ、将来マトロン(領主の家を切り盛りする女主人)になるべく、厳しい教育を受けました。マトロンは国民の教育や健康、生活全般のやりくり



「ホスピスのこころ 最期まで人間らしく生きるために」



「テnder・ラブ」

たちへの遺言として、誕生日を迎えるごとに読むよう書いた手紙の話が紹介されています。手紙には子どもの成長の過程を想像しながら書いた母親の、いっばいの愛情があふれています。死

を目前にしながら、人は何を考え、何をすることができているのか。」「示唆に富み、そして考えさせられることの実に多い内容。看護職にお薦めです。」